教育研究評議会や各機関運営会議における外部委員からの意見の活用状況

〇令和6年度

【機構本部】

育研究評議会)



機構外委員からの意見等

- 〇 中期計画の論文の目標値が大きく、達成が難しいため、本部で査読つき論文を掲載する媒体を作るといった支援があるとよい。(令和5年度第2回教育研究評議会)
- 日本国内に人文系査読誌が少なく、優れた論文で も掲載されない問題がある。(令和5年度第2回 教育研究評議会)
- 人間文化研究創発センターの活動において、若い 世代の研究者に対して、アドバイザリーボードか らの意見をどのように浸透させていくかが今後の 課題になるのではないか。(令和5年度第3回 教

活用状況

〇 機構として国際的な出版を推進していくために、オランダに本社を置く学術出版社であるブリル社(De Gruyter Brill)とオープンアクセス書籍シリーズ「NIHU Studies in the Humanities」を刊行することとする合意を令和6年6月に締結した。機構の6機関に所属する研究者による研究プロジェクトの成果を、英文の0A単行本及び論文集等として刊行するもので、令和7年度以降順次刊行される予定である。



Back to News

Brill and Japan's National Institutes for the Humanities Sign Cooperation Agreement

Leiden – 29 August 2024

Brill, the international academic publisher, and Japan's National Institutes for the Humanities (NIHU) are pleased to announce that they have signed an agreement to cooperate on an Open Access book series to be entitled NIHU Studies in the Humanities. The new series will showcase monographs and edited volumes resulting from research projects conducted by Japanese and international scholars affiliated with one of NIHU's six institutes. In order to ensure that volumes in the series reach the widest possible audience, including in developing countries, NIHU will sponsor their publication in

(Brill 社ウェブサイトでのプレスリリース)

○ アドバイザリーボード委員が、各プロジェクトの活動実績や実施計画などをプロジェクト代表等からヒアリングした上で作成した意見書を、報告書として取りまとめてウェブサイトで公開し、 若手研究者にも確認できるようにした。

また、令和6年度の「基幹研究プロジェクト等研究連絡会」(各プロジェクトの相互理解を図る場) において、新たに若手研究者の発表枠を設けるとともにアドバイザーをコメンテーターとして招き、若手研究者がアドバイザーの意見を直接聞くことができる機会とすることで、意見の浸透を図った。

- 〇 DHにより人文学が深くて遠いものから身近なも のになってきているため、今までのように深掘り していくだけでなく、社会との接点をどう作って いくかに焦点を当てていく必要がある。今までは ターゲットではなかった層がターゲットになって いくことが次の展開で重要な点になっていくので はないか。(令和6年度第4回 教育研究評議会)
- 共同研究でブレイクスルーを起こすには、今まで の研究の延長ではなく、DHによって研究のスタ イルも変わると思うので、何か斬新な視点から考 えることが必要になると思う。(令和6年度第4回 教育研究評議会)

〇令和7年2月に、DH国際シンポジウム「イマーシブ・インタラクティブ技術と文化鑑賞体験」を 開催し、イマーシブ・インタラクティブ技術を通じた新たな可能性について、国内外の第一人者 を招聘し、その事例を学ぶとともに、今後の展開を見通す機会を設けた。

DHの研究推進の中においては、資料を解析する手法はもちろんのこと、新たな手法による可視 化も重要な研究フィールドとしている。この可視化にかかる分野では、コンピュータを用いてこ れまでと異なる可視化の手法を導入することで、新たな鑑賞体験による文化理解の深化・変化を もたらすような効果が期待される。

【国際日本文化研究センター】 🤝



機構外委員からの意見等

- 〇ホームページを見ても、日文研がどのような機関で あるのかすぐに分からないため、デザイン等の改善 が必要である。(令和6年度第1回 運営会議)
- 〇 日文研のスローガン(日文研を説明する短 文)を作成し、ホームページのトップページ の一番目立つ場所に配置した。

併せて、トップページのデザインの見直しも 行った。

活用状況



【総合地球環境学研究所】🐯



〇ダイバーシティ問題に留意すべし。(令和4年度第 1回 運営会議)

機構外委員からの意見等

活用状況

○ 令和6(2024)年度の運営会議委員を男性8名、女性6名とした。女性委員の比率は、前年度に比 して約33%から約43%に上昇した。

令和 5 年度 = 男性 8 名: 女性 4 名(女性比率約 33%) 令和 6 年度 = 男性 8 名: 女性 6 名(女性比率約 43%)

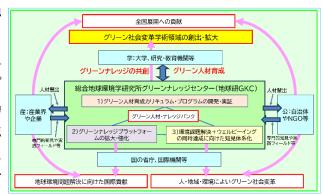
〇長期滞在する海外の若手研究者をもっと増やすこ とはできないだろうか。そうすることで、より深い レベルの交流が可能となり、支援にも繋がる。(令 和5年度第3回 運営会議等)

〇日本におけるフューチャー・アースのネットワークに中心的な役割を果たし、国内外の有識者 及びネットワークと連携して地球規模の喫緊の課題に対処するため、アジアに根ざしたサステナ ビリティ科学のビジョンを推進する「フューチャー・アースセンター」の令和 7(2025)年4月1日 発足に向けて、所内運営体制を整えた。フューチャー・アースセンターでは、特にキャリア初期の 研究者のための超学際的な能力開発を行うこととしており、今後、当センターの活動を通じて、 長期的あるいは継続的な若手研究者の増加と交流が深まることが期待される。

- 〇企業は、ESG 開示や企業財務等において、自ら考え て発信することを求められているが、その際に人文 的な知見や人材等が必要となるため、Social Due Diligence という観点で産学連携を推進することは ありうる。(令和6年度第3回運営会議等)
- 〇いくつかの大学で講義や演習を行っているが、これ は地球研の人的なリソースを生かし、大学の要求に も応える時節を捉えた試みであると評価できる。 (中略) 将来的には大学側に専任教員の採用を促す 可能性のあるプロジェクトと位置付けるべきでは ないか。そこに地球研の若手研究員を就職させるこ とをこれらの活動の目的のひとつとして、教育から 人材育成、就職までを一連のプロセスと捉えるよう にしてはどうか。(令和4年度外部評価委員会)

〇グローバル・コモンズの概念に立脚し、経済活動を含め、持続可能な環境を創出する「グリーン人 材」の育成及びその活用に取り組む「グリーンナレッジセンター」の令和7(2025)年4月1日発足 に向けて、所内運営体制を整えた。

グリーンナレッジセンターでは、多様な地 域、産業分野及び全国の大学等と連携して、 グリーン人材育成のためのカリキュラム及 びプログラムの開発・実証に携わるほか、プ ログラムの横展開/発展や人材を産公の現場 で活用するためのプラットフォームを拡充 することとしている。この一連のプロセスに おいて、環境課題の解決とウェルビーイング 同時達成に向けた知見の体系化を目指して いる。



【国立民族学博物館】



と とり とうしゅう とうしゅ とうしゅ おいしゅう おいしゅう おいしゅう はいしゅう はいまれる はいまま はいまま はいままれる はいままれる はいまれる はいままれる はいまれる はいまれる はいまれる はいままれる はい	外委員	かん	の音	目竿
17771#	ハをち	1 /J ' F)	いん	π. √

○自己点検報告書の作成の際には、過去数年間の数値 の推移がわかるようにするなど、もう少し網羅的な 記述をした方が対外的に分かりやすいものになる のではないか。(令和4年度第2回 運営会議)

活用状況

〇本館の活動に関する様々な数値や指標を図表やグラフで可視化した『みんぱくファクトブック』 を令和4年度から作成している。令和5年度外部評価委員会で出た意見等も踏まえ、TRAJECTORIA に関する情報やデータを追加したほか、基幹研究プロジェクトや共創先導プロジェクトで開催し たシンポジウム等の一覧等の項目を追加し、より充実した『みんぱくファクトブック 2023』を令 和7年1月にウェブサイトで公開した。

参考 https://www.minpaku.ac.jp/assets/pages/aboutus/opendoor/factbook2023.pdf

〇令和5年度

【国立歴史民俗博物館】



機構外委員からの意見等	活用状況	
〇『研究報告』の内容をメールで広報してはどうか。 (第83回 運営会議)	○ 令和5年度の『研究報告』の完全電子化に伴い、 歴博リポジトリに登載するとともに、 より広く広報するため、X (旧ツイッター)に ポストすることとし、令和5年12月12日、 令和6年3月29日にポストした。	国立歴史民俗博物館(歴博) 『国立歴史民俗博物館研究報告』第244集・246集・247集を公開しましたので、是非ご覧ください。 244集 rekihaku.repo.nii.ac.jp/search?page=18 246集 rekihaku.repo.nii.ac.jp/search?page=18 247集 rekihaku.repo.nii.ac.jp/search?page=18 47集 rekihaku.repo.nii.ac.jp/search?page=18 47集 rekihaku.repo.nii.ac.jp/search?page=18 48000 · 2024年5月30日 · 1.2万 仟の表示
	参考 <u>https://x.com/rekihaku/status/1796013670205620671n/</u>	□ □ □ □ □ □ □

【国文学研究資料館】



機構外委員からの意見等

○閲覧室の開室日について、現在は水曜日が閉室とな っているが、遠方の研究者や学生などの利便性の観 点から平日は毎日開室していることが望ましい。

活用状況

〇新型コロナウイルス感染症発生前の開室状況に戻し、令和6年4月1日から月曜日~金曜日は、 9時30分~18時、土曜日は9時30分~17時に開室することとした。

【国立国語研究所】

(令和5年度第2回 運営会議)



機構外委員からの意見等

〇研究所のミッションに、「日本語教育」の記載がな いことについて、来年度から日本語教師が国家資格 となることを受け、日本社会において日本語教育が 持つであろう重要性は飛躍的に高くなる。機会があ れば、日本語教育への視野・観点を盛り込んでいた だければ良いことにつながると思う。(令和5年度 第3回 運営会議)

活用状況

○ 外部委員の意見を踏まえたミッションを成文化し、研究所のウェブサイトにおいて公開した。

ミッション

国立国語研究所は日本語に関係する学術研究の進展を牽引することをミッションとします。

そのために以下の取り組みを重点的に進めます。

- 言語研究のための高品質な言語資源の開発など、日本語・日本語教育研究のインフラ整備を大規模かつ組織的に推進し、利用を促進します。
- 日本語ならびに日本語と関連する諸言語について、諸科学と連携しながら先端的な研究を実施して新たな研究領域を開拓し、国内外の研究ネー ットワークを構築します。
- 言語資源開発や先端的研究によって得られた知見を大学院教育などによって次世代の研究者に継承させます。

参考 https://www.ninjal.ac.jp/info/aboutus/mission/

【国際日本文化研究センター】



日X師	
機構外委員からの意見等	活用状況
○教員の採用について、教授と准教授、助教のバラン	〇 従前からジェンダーバランス、若手雇用などを積年の課題として把握しており、「長期的な教員
ス・男女比のバランスが悪く、改善が必要である。	配置構想」を策定し、当該構想に基づいた採用をおこない、偏りの是正に取り組んでいる。
(令和5年度第3回 運営会議)	令和5年度は、准教授1名、助教2名、特任助教1名(うち女性3名)を採用した。
〇広報について、一般の人々にも分かりやすい、関心 のある研究を通して学問の価値を知ってもらうこ とが必要である。(令和5年度第3回 運営会議)	○ 地域のステークホルダーとの繋がりや若年層への日本文化研究の成果発信に資するため、京都府 及び京都市教育委員会や奈良先端科学技術大学院大学と連携協定を結び、積極的な広報につなげ ている。
○今後の研究について、普遍性を持ったアジェンダを 構築することが肝要であるため、優れた研究者を世 界から集める必要がある。(令和5年度第5回 運 営会議)	○ 優れた研究者を世界各国から受け入れるために、 外国人研究員制度、外来研究員制度を引き続き活用するとともに、 優れた研究者の育成という観点から、 ・博士後期課程学生受入れのための

「日文研学術奨励賞」

・ポストドクター研究員受入れのための

「JF-日文研フェローシップ」(国際交流基金と共同)

を設立し、令和6年度から、海外からの若手研究者受入れを 開始した。



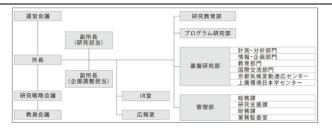
【総合地球環境学研究所】🤯



機構外委員からの意見等	活用状況
〇ダイバーシティ問題に留意すべし。(令和4年度第	〇 研究プログラム評価委員会委員について、令和5年度における任期満了による委員交代の際に、
1回 運営会議)	ジェンダーバランスを考慮した委員の選出を行い、委員間の女性割合が 14%増加した。
	令和 4 年度以前 = 男性 10 名:女性 5 名(女性割合 33%)
	令和 5 年度以降 = 男性 8 名: 女性 7 名(女性比率 47%)

〇運営体制について、経営推進部における IR 室とコ ミュニケーション室の役割を検討すべし。(令和4 年度第1回 運営会議)

〇 令和6年度4月発足に向けて、経営 推進部を含む改組を行い、IR室などの 一部は所長直下に置くことで、様々な 意思決定や必要な対応を迅速に行う 運営体制を整えた。



参考 https://www.chikyu.ac.jp/rihn/about/policy/

〇令和4年度

【国際日本文化研究センター】



機構外委員からの意見等	活用状況
〇「未来の学術振興構想」の策定に向けた「学術の中	〇 運営会議での意見を踏まえて申請書を修正し、日本学術会議へ「学術の中長期研究戦略」に係る
長期研究戦略」について、日本語で書かれている叢	申請書を提出した。当該申請については、未来の学術振興構想(2023年版)(令和5年9月25日
書を英語に翻訳し、発信することを記載してもらい	公表)に掲載された。
たい。(令和4年度第4回 運営会議)	参考 https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-25-t353-3-16.pdf

【総合地球環境学研究所】🤯



機構外委員からの意見等	活用状況
〇ダイバーシティ問題に留意すべし。(令和4年度第	〇 令和5年4月以降採用の女性限定教授の公募を行い、1名の採用が決定した。
1回 運営会議)	
	参考 総合地球環境学研究所 教授【女性限定】(2023年2月24日(金)17時必着)

【国立民族学博物館】



機構外委員からの意見等

○自己点検報告書の作成の際には、過去数年間の数値 の推移がわかるようにするなど、もう少し網羅的な 記述をした方が対外的に分かりやすいものになる のではないか。(令和4年度第2回 運営会議)

活用状況

○ 本館の活動に関する様々な数値や指標を表やグラフの形で可視化した『みんぱくファクトブック 2021』を作成しウェブサイトで公開した。

また、対外的に分かりやすくという観点から、継続して 見直しを行い、令和5年度に作成、公開した『みんぱく ファクトブック 2022』では、掲載項目の追加やデザイン の改修等を行った。

- 参考 https://www.minpaku.ac.jp/assets/pages/aboutus/
 opendoor/mfb2021_00.pdf
- 参考 https://www.minpaku.ac.jp/assets/pages/aboutus/
 opendoor/factbook2022.pdf

